

学年	教科等	単元名	日時
第1学年	生活科	みんなであそぼう大きくせん!	令和6年2月9日(金)

1 本時の目標

風が吹いたときの様子を予想したり、試しに遊んで確かめたり、見直したりしながら、遊びに使う物をつることができる。

2 指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て		
<p>1 本時学習について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びに使う物 ○ 風の利用の仕方 ○ 本時のめあて（ミッション） <p>道具をパワーアップさせよう。</p> <p>2 学習への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時のふりかえり ○ 活動の流れ、ゴールとルールの確認 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>活動の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 実験タイム ② 撮影タイム ③ 報告タイム <p>ゴール</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遊ぶための道具をパワーアップさせる。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>ルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ めざすレベルが達成できたら、成功。 <p>レベル1</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 少しでもできたら成功！ <p>レベル2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 10秒できたら成功！ <p>レベル3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ずっとできたら大成功！ </td> </tr> </table> <p>3 道具をつくりながら試す。（★） 実験</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 材料の選択、道具の製作、試しの遊び <p>風を改良しよう。前の時間は揚がらなかったけど、今日は、家からレジ袋を持ってきたよ。これなら風で膨らむから、揚がると思うな。</p> <p>あれ？揚がらないぞ。どうしてかな。</p> <p>風が当たるように、割り箸を付けて、ピンとなるようにしてみたら、どうかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ふりかえり 撮影 <p>ちょっと浮いたから、成功だ！でも、もっと浮かせたいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 材料の選択、道具の製作、試しの遊び <p>4 気付いたことを話し合う。 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 気付きの質の高まり <p>私はレベル1をめざしました。紙をレジ袋に変えて、割り箸を付けたら、少し浮きました。</p> <p>家で風揚げして高く揚がったときは、糸が長かったから、糸をもっと長くしてみてもうどうですか。</p> <p>なるほど、糸が短すぎるから上に揚がらなかったのですね。袋を改良した方がよいと思っていました。</p> <p>5 本時学習についてふりかえり、新たな思いや願いをもつ。（★）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の自己評価 ○ 次時の活動への新たな思いや願い <p>レベル1が達成できて嬉しいな。家にある風を見て、糸の長さ確かめてみよう。次の時間はレベル3をめざしたいな。</p>	<p>活動の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 実験タイム ② 撮影タイム ③ 報告タイム <p>ゴール</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遊ぶための道具をパワーアップさせる。 	<p>ルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ めざすレベルが達成できたら、成功。 <p>レベル1</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 少しでもできたら成功！ <p>レベル2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 10秒できたら成功！ <p>レベル3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ずっとできたら大成功！ 	<p>○ 前時につくった物や風の利用の仕方について尋ね、一人一人の思いや願いを明確にさせることで、本時のゴールを意識して活動を行うことができるようにする。</p> <p>○ 活動の流れを伝え、めざすレベルを決めさせることで、新たな思いや願いをもって、活動の意欲を高めることができるようにする。</p> <p>○ 前時に達成したレベルと比較させて、自分に合うレベルを選ばせることで、活動をとおして、意欲をもち、できた喜びや達成感を味わうことができるようにする。</p> <p>○ 身近にある物を多種準備し、風と遊ぶために必要な物を選んで試せる環境をつくっておくことで、つくった物を見直したりし、材料を選び直したり、改良したりすることができるようにする。</p> <p>○ 自分のペースで、風を利用して遊びに使う物をつくったり、つくっているものを見直したりさせる。そうすることで、「自律的に学ぶ」ためのサイクル「動機・見通し→遂行・コントロール→ふりかえり」につながる経験を積むことができるようにする。</p> <p>○ 活動の途中で、つくっている物や活動の様子をふりかえる機会を設けることで、風を利用した遊びの楽しさや遊びを創り出すおもしろさに気付いたり、気づきを自覚したりすることができるようにする。</p> <p>○ つくった物を報告する場を設定し、自分の思いや願いを伝えたり、様々な思いや願いをもった友達とかわらせたりする。そうすることで、友達と交流するよさを感じ、協力しながら友達や自分の思いや願いの実現を図ろうとすることができるようにする。</p> <p>○ 最初に決めたレベルを基に自己評価させることで、できたことに気づき、今後の目標や意欲につなげることができるようにする。</p> <p>○ 話し合いを受け、「必要な材料や調べたいことはないかな。」と尋ねることで、次時の活動への思いを広げ、材料を探したり、よりよい方法を調べたりすることができるようにする。</p>
<p>活動の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 実験タイム ② 撮影タイム ③ 報告タイム <p>ゴール</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遊ぶための道具をパワーアップさせる。 	<p>ルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ めざすレベルが達成できたら、成功。 <p>レベル1</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 少しでもできたら成功！ <p>レベル2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 10秒できたら成功！ <p>レベル3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ずっとできたら大成功！ 		

3 本時の評価規準

風が吹いたらどうなるのか予想したり、実際に遊んで確かめたり、もっと楽しく遊ぶことができるように見直したりしながら、遊びに使う物をつくっている。 (思考・判断・表現) 【行動観察・行動分析】

4 板書



5 指導講評

宮崎県教育研修センター 石川 浪子指導主事

- 本時の手立てには、「タブレット型端末の活用」と「『撮影したのを見ましょう』という声かけ」があった。本時は、途中で撮影する時間や伝え合う場面を設定しており、外で試していた子どももタブレット型端末を取りに戻って撮影したり、ペアで撮り合ったりする姿が見られた。子どもたちが何かを記録しようとしており、見返すための材料があったことで、客観的に自分を見ることができ、気付きの質も高まった。互いに見せ合うことで「学習上の自立」「生活上の自立」「精神的な自立」につながり、本研究がめざす子どもの姿につながっていくと思われる。
- 本時は、個人での活動後、授業者が細かく切り返ししながら、子どもにふりかえりをさせていた。全員にふりかえる力を付けさせるためには、30秒でもよいので、自分の動画を見る時間を設定してみるとよい。記録したことを話すことで記憶され、記憶が蓄積されると知識になり、学習が積み重ねられることになる。
- ICT機器の活用に関して、気付きの質を高めていく4つの活動に組み込んでいくとよい。通常の授業においても、「ふりかえり表現する」とときにはよく使われるものであり、本時においては「伝え合い交流すること」や「多様性を生かす」こともできていたが、「試行錯誤する」ところではなかなか実践例は多くはない。文部科学省「スタディーエックス スタイル (StuDX Style)」のホームページに様々な実践例があるので、参考にしてほしい。
- 次年度に向けて、生活科の学習指導過程は4つだが、附属小の学びのサイクルは3つで、「感じる・考える」が含まれていない。生活科では、「感じる・考える」が大切であり、本時もこの姿が多く見られていた。自律的に学ぶサイクルに、どのように入れていくのか、次年度に向けての課題だと思われる。

6 考察

子どもの思いや願いを基に活動のゴールを設定したことで、実現を図るためのさらなる思いや願いが生まれ、学習活動に見通しをもつことができ、安心して学習に臨んだり、実生活においても継続的に活動を続けたりする姿が見られた。しかし、成功体験をさせるためには、全てを自由にするのではなく、教師主導で進める時間や制限の設定が必要な場合もある。

タブレット型端末を用いたことで、表現方法を増やすことができた。また、つくっているものや活動の様子を記録させたことで、自分の活動や考えの変容に気付いたり、思いや願いに合わせて修正したりすることができた。気付きの質をさらに高めるためには、撮影したのを見返す時間や友達と伝え合うことができる場を設定する必要がある。